入会したくなる青年部会へ

宮ト協青年部会長 門馬　正人氏

「組織拡充に努めたい。部会活性化を図り、若い世代が入会したくなる青年部会を目指す」。こう語るのは、宮城県トラック協会青年部会の門馬正人部会長（45、門馬商運）。5月の総会で、筆頭副部会長から昇格した。

青年部活動に携わったのは8年前。出身母体の宮ト協塩釜支部の青年部に入会し、2年後に部長に就いた。「行事に参加しているうちに部長に指名され、今度は県の部会長を任された。任された以上は、しっかりと責務を果たしたい」

加入促進に向けた取り組みに力を入れる。人手不足、燃油価格や諸物価の高騰など、業界を取り巻く経営環境は依然として厳しい。こうした中で、部会活動を積極的に推進するには「何らかのメリットがないと難しい。部会活動が仕事に結び付くのであれば、加入者も増えるはず」と実利的な部会運営を強調する。

塩釜支部の会員は100社近いが、地元企業が少なく、大手の支店や営業所が多い。そのため、青年部員も地元が少なく、徐々に減少傾向にある。「支店、営業所からの入会は歓迎するが、一定期間を過ぎると別の部署に移ってしまう。できれば、次世代を担う若手経営者に入会してほしい」

こうした傾向は他支部でも変わらない。そこで、部会活動を県単位に集約し、参加企業にもメリットのある活動を模索する。

同部会では、2025年度も意見交換会を年2回開催する。各支部持ち回りで、青年部会の役員と担当支部員が対象だが、今年からは支部を問わず全会員が参加できる形式を目指す。

部会活動、県単位に集約

新トップ

「一支部の部員だけでは参加者は集まらない。全会員に広げることで有意義な意見交換の場にしたい」

労務問題や自動点呼システム、高速道路の料金見直しと駐車場不足、法令改正や新法の説明会など、時宜を得たものを取り上げる。更には、前年度に実施した県議会の若手議員との勉強会なども継続したい考えだ。「今回の『新物流2法』を例に出すまでもなく、政治の力は大きい。若手県会議員とのパイプを太くし、我々の実状を理解してもらうとともに、明るい未来を共に描けるような関係を築いていきたい」

隣県トラック協会青年部会との交流、共同事業を積極的に呼び掛けるほか、宮ト協女性部会（須藤奈津江部会長）との連携も深め、業界の健全発展に注力する。（黒田秀男）

リチウム電池リサイクル

モバイルハウス販売 電源なしで利用可能

トヨタライン

トヨタライン（齋藤和彦社長、山形県東根市）は7月から、リサイクルで電気を地産地消する「MOBILE HOUSE（モバイルハウス）」の販売に乗り出した。同社がこれまで展開してきたプレハブ輸送・EV（電気自動車）充電器販売事業で培ったノウハウを最大限に生かし、循環経済（サーキュラーエコノミー）の実現に貢献する。

廃車買い取りのMogee（茂木宏社長、宮城県亘理町）がプロデュースするmogee solar lab.が開発した移動型プレハブハウス。使い終わったEVのリチウムイオン電池を搭載していることが特徴で、太陽光パネルで発電した電気を24時間利用できる。エアコンと照明が標準装備で、断熱性能を高め消費電力を抑えるための内装工事が施されている。質の高い電池を厳選して利用しており、東北大学の田路和幸名誉教授と東北工業大学の下位法弘教授の技術指導を受けて完成した。

電源がない場所で電気を利用でき、法人・個人利用問わず様々な用途に対応。災害対策拠点やコンパクトオフィスとしての利用のほか、例えば夏は田畑に設置し農業の合間の涼しい休憩スペースとして、冬は自宅に運んで物置や憩いの場として利用するなど、顧客のニーズに合わせた使い方を提案する。

トヨタラインが一次代理店として、全国に向けた販売と運送を手掛ける。同社では、これまでプレハブの輸送に携わってきたほか、昨年からEV充電器の設置事業を展開し、道の駅とざわ（山形県戸沢村）と道の駅もがみ（最上町）での導入実績を持つ。「トヨタラインだからこそできる事業」として展開を決めた。

齋藤社長とモバイルハウス

また、循環経済の理念にマッチしていることも展開の決め手となった。中古のバッテリーやプレハブを用い、太陽光で発電するため、資源投入量・消費量を抑え、ストックを有効活用しながら付加価値を生み出せる。

2025年末までの販売記念価格として200万円（税別）で販売する。5年間の保証期間を設けており、顧客に合わせたオプションの追加も可能。

齋藤社長は「現代の循環経済を象徴する商品。トヨタラインが持つノウハウを生かして可能性を広げていきたい」と語る。

ヤマラク運輸、安全大会

健康・安全へ意識向上

ヤマラク運輸（山口長一社長、山形県白鷹町）は7月12日、安全大会を開いた。社員は様々な分野の講演に耳を傾け、健康と安全への意識を高めた。

大木一敏専務が「健康管理と安全運転、安全作業、車両点検を特に徹底することが重要。ワンフォーオール・オールフォーワンの精神で、無事故・無災害に取り組んでほしい」とあいさつ。

午前の部では、健康管理の重要性を伝えた。初めに、社員を対象とした健康診断を実施。その後、「より良い睡眠のための健康管理」について、米沢ヤクルト販売の廣瀬直美課長がレクチャーした。

「無事故・無災害に取り組んでほしい」と大木専務

午後の部では、あいおいニッセイ同和損害保険による事故防止研修を行った。山形サービスセンターの中島聡所長が「発生事故から学ぶ交通事故防止」について、ヤマラクで発生した事例を基に、運転中に注意するポイントについて解説。また、山形支社の森川崇之次長が「ながらスマホ研修」をテーマに、社員参加型の講義を行った。

最後に、車両のメンテナンスについて説明した。西東北日野自動車の富樫達哉次長が脱輪防止について座学で講義。小嶋自動車整備工場の小嶋秀彦社長が点検や増し締めの方法を実演し、訓練を行った。

社員の表彰も行った。勤続30年の髙橋伸輔氏、10年間無事故を達成した佐藤博氏、高田慎一氏が表彰状を受け取った。

安全大会後に開いた納涼生ビール大会では、山形県を拠点に活動するバンド「山形ベンチャーズ」の演奏や全員分の景品を用意した抽選会を行い、親睦を深めた。（稲井日菜子）

宮ト協塩釜支部

労災ゼロへ決起大会

前年度達成事業所を表彰

宮城県トラック協会の塩釜支部（伊藤治支部長）は6月から労働災害ゼロ運動を展開している。7月15日には安全総決起大会と「労災ゼロ・チャレンジ研修会」を開催した。

労働災害ゼロ運動は安全第一を基本に、経営トップが安全衛生管理体制の総点検を行い、安全意識の高揚を図るための従業員教育に努め、安全衛生活動を実施する。陸上貨物運送事業労働災害防止協会の宮城県支部（高原博支部長）が共催し、仙台、古川の両労働基準監督署が後援している。

「真の労災ゼロを達成しよう」と伊藤支部長

期間は6月1日～2026年5月31日。期間中に労災防止に関するリスクアセスメント研修など所定の研修会、講習会などの安全活動に参加し、休業1日以上の労災ゼロを達成した事業所については、塩釜支部長、陸災防宮城支部長と仙台もしくは古川の労基署長の3者連名による認定証が交付される。

決起大会で、伊藤支部長が「前年度は支部会員の41・5％に当たる37事業所がゼロを達成している。半面、消極的な会員も散見される。こうした会員に本運動への参加を促して支部内から労災を完全に根絶し、真の労災ゼロを達成しよう」とあいさつ。

仙台労基署の髙橋喜治署長と陸災防宮城支部の夏坂佳伸事務局長も、それぞれ労災防止を呼び掛けた。

石巻支部は飲酒運転根絶で

宮城県トラック協会の石巻支部（武山孝好支部長）は7月16日、飲酒運転根絶総決起大会を開き、飲酒運転根絶を誓う署名簿を石巻警察署に提出した。

武山支部長が3月に発生した県内の物損事故に伴う中型トラックドライバーの飲酒運転検挙に触れ「車両は営業ナンバーで、プロドライバーとしての意識が欠如しており、残念だ。皆さんには再度、従業員への飲酒運転根絶に向けた注意喚起をお願いしたい」と話した。

前年度（24年6月1日～25年5月31日）の労働災害ゼロ運動達成事業所に対する認定書の贈呈式も実施。達成した37事業所を代表して、渡邊運送（渡邊一夫社長、宮城県七ケ浜町）の渡邊美智子取締役に、髙橋署長が認定証を手渡した。

また、仙台労基署の阿部久範・安全衛生課長が「陸上貨物運送事業における労災防止対策」をテーマに講演を行った。

岩井雄一委員が①経営幹部が先頭に立った安全衛生活動の積極的な推進②荷役作業の安全対策ガイドラインの周知徹底③健康に働くことのできる職場づくり――など5項目の安全宣言案を読み上げ、満場一致で採択した。（黒田秀男）

石巻署の山田署長㊞に誓約書と署名簿を提出する武山支部長

その上で、「支部としても交通事故防止運動を展開し、飲酒運転根絶に向けて取り組んでいる。会員の経営者、従業員、家族の中から飲酒運転が発生しないよう事業者同士が団結し、飲酒運転根絶を推進しよう」と述べた。

石巻署の山田正弘署長は「悪質な飲酒運転の取り締まりをより一層強化し、あらゆる交通事故抑止に全力を尽くす。皆さんには地域、職域に密着した安全運転のけん引役になり、プロドライバーとして他の模範となって悲惨な交通事故や飲酒運転が根絶されるよう、協力をお願いする」と述べた。

同支部では飲酒運転の根絶に向けて、会員事業所に加え、従業員とその家族らに対して署名活動を展開。その結果、126事業所の誓約書と1088人の署名が集まった。

武山氏が「宮城県交通安全県民運動の重点施策の一つとして飲酒運転根絶を掲げているが、いまだ根絶には至っていない。当支部として、同運動の更なる浸透を図るため、署名活動を展開した」と説明し、山田氏に誓約書と署名簿を手渡した。

この後、同支部青年部の佐々木真一副部長が①対面点呼・中間点呼の徹底による過労、睡眠不足、飲酒運転を防止②交通ルールの順守、モラルの高揚を期する安全教育の徹底③運行管理業務の検証と安全運行体制の確立・強化、関係法令順守の徹底――の飲酒運転根絶宣言案を読み上げ、満場一致で採択した。

また、石巻署の佐藤康治交通課長が「石巻警察署管内の交通情勢」をテーマに講演した。（黒田秀男）

東運局長就任会見

安全・安心確保を重視

吉田局長

東北運輸局の吉田昭二局長は7月11日、就任会見を開き、今後の方針について、安全・安心の確保や人材確保と生産性向上などを重視する考えを表明した。交通事故防止対策に万全を期すとともに、多発する自然災害の対処に向け、各関係先や団体との連携を強化。荷主や消費者の行動変容による効率化を推進する考えを示した。

安全・安心の確保は「運輸・観光行政の最大の使命」と強調。安全最優先の企業文化の醸成やコンプライアンス（法令順守）の徹底を求めた。また、トラック・物流Gメンの積極的な活用を呼び掛け、「ドライバーの賃金確保を進めたい」と述べた。

吉田氏は1日付で就任。1993年に運輸省（現国土交通省）入省後、航空局交通管制部長や運輸総合研究所主席研究員国際部長などを歴任した。山形県出身で、2015年から2年間、同局の企画観光部長も務めた。（今松大）

ラジオ番組の冠スポンサーに

いわべ物流社長が出演

収録後に記念撮影に臨む（左から）シンガーソングライターの島みやさん、岩部社長、歌手の赤部さん

いわべ物流（岩部俊社長、札幌市西区）は、ラジオ番組「島みやえい子 金曜3時はお茶の時間」の冠スポンサーを務め、会社のイメージアップや認知度向上を図っている。7月11日には、岩部社長が同番組に出演。同社の事業内容や4月から放送を開始したCMの制作秘話などを語った。

同番組は、複合商業施設「新さっぽろサンピアザ」（厚別区）にスタジオを持つ「RADIOワンダースタジオ FMドラマシティ」が制作。

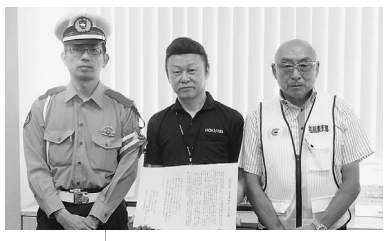
札幌市在住のシンガーソングライター・島みやえい子さんがパーソナリティを担当している。アシスタントで歌手の赤部ゆきさんとともに、毎週金曜日午後3～4時、北海道を中心に活躍する歌手やナレーターなど様々なゲストを迎え、軽快なトークを繰り広げる。

11日の放送では、岩部氏が特別ゲストとして出演。島みやさんが手掛けたいわべ物流の社歌「手から手へ」とCMソング「はこべ、いわべ」の誕生秘話や、CM撮影の裏話に加え、同社の起業からこれまでの歩みに関するエピソード、「社長」「4人の子供の父親」という二つの顔を持つ自身の1日のルーティンなどを披露した。

岩部氏は「ラジオ局がある札幌市厚別区は、自分や妻が生まれ育ち、当社の営業所もある思い入れの深い地区。事業のPRはもちろん、この地域をもっと盛り上げたいという気持ちで冠スポンサーになった。毎回見学しに来てくれるファンの方もいるのでうれしい」と話している。（高清水彩）

各支部で事業所訪問

札ト協



東支部は北海道郵便逓送の札幌営業所などを訪問（14日）

札幌地区トラック協会（渡邊英俊会長）は例年、支部ごとに事業所訪問を行い、会員に交通事故防止を呼び掛けている。関係機関・団体と連携し、札ト協職員や各支部の役員らが会員事業所を訪ねる。2025年度は7月9～31日に実施。14日には札幌東支部（武田秀一支部長）が行った。

札幌東警察署も協力した。出発式で、武田支部長が「飲酒運転の根絶やスピードダウン、歩行者保護などをしっかりと伝えていこう」とあいさつ。東署の長谷川孝之署長も事故防止に向け改めて協力を求めた。

その後、数人の班に分かれて、北海道郵便逓送（中田公成社長、札幌市北区）の札幌営業所（東区）などを訪問。交通事故抑止宣言書や安全旗、ポスターなどを贈った。（朽木崇洋）

整備技能研修

点検時のポイント

十ト協輸秩委

十勝地区トラック協会の輸送秩序交通対策委員会（浅井雅之委員長）は7月11日、整備技能研修会を開催した。2㌧車、4㌧車、11㌧車、トレーラに乗車するドライバーが対象で、整備点検の知識や技術を学んだ。

自社で行っている方法で日常点検を実施

開会に当たり、浅井委員長が「研修会で学んだことを持ち帰り、自社のドライバーに伝え、環境に優しい安全運転をお願いしたい」とあいさつ。

帯広運輸支局の佐藤英信・首席陸運技術専門官が「日常点検」をテーマに、点検時のポイントや注意事項を解説した。

参加者は、普段自社で行っている方法で日常点検を実施し、ディーラーからの講評を受けた。また、車輪脱落事故防止に向けた講習も行った。（高清水彩）

新田選手ら全国へ

福ト協ドラコン

各部門で優勝した選手

福島県トラック協会（佐藤信成会長）は7月12日、トラックドライバーコンテストを開催した。4トン、11トン、トレーラ、女性の各部門で、選手が学科競技の成績を競い合った。

交通法規200点、構造機能100点、運転常識100点の400点満点。

4トン部門は新田祐治選手（シンクラン郡山営業所）、11トン部門では七海治選手（カリツー東日本郡山営業所）、トレーラは渡辺真治選手（レンゴーロジスティクス）、女性部門は大内さゆり選手（日本郵便輸送郡山営業所）が優勝を決めた。1位となった4人の選手は、全国大会に駒を進める。（稲井日菜子）

（面担　三田澪）